

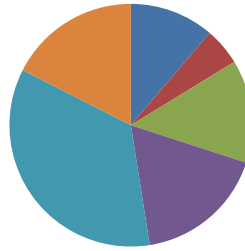
■ 国際森林年の文化の日に森林と木の「文化」について語る
公開シンポジウム アンケート結果

【回収枚数：80枚】

1 アンケートを回答した方

Q1: 年齢

① 29歳以下	9
② 30歳代	4
③ 40歳代	11
④ 50歳代	14
⑤ 60歳代	28
⑥ 70歳以上	14
無記入	0
合計	80

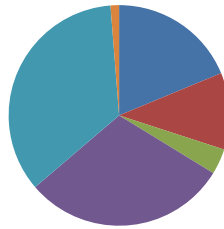


- ① 29歳以下
- ② 30歳代
- ③ 40歳代
- ④ 50歳代
- ⑤ 60歳代
- ⑥ 70歳以上
- 無記入

2 シンポジウムについて

Q2: どこで知りましたか。

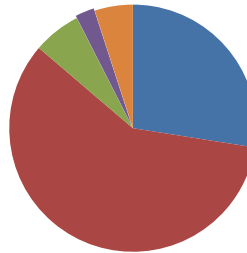
① 朝日新聞	15
② 協議会からの案内	9
③ 協議会HP	3
④ 知人から	24
⑤ その他	28
無記入	1
合計	80



- ① 朝日新聞
- ② 協議会からの案内
- ③ 協議会HP
- ④ 知人から
- ⑤ その他
- 無記入

Q3: 全体の感想

① 大変良かった	22
② 良かった	47
③ 普通	5
④ やや期待はずれ	2
⑤ すごく期待はずれ	0
無記入	4
合計	80



- ① 大変良かった
- ② 良かった
- ③ 普通
- ④ やや期待はずれ
- ⑤ すごく期待はずれ
- 無記入

■ 国際森林年の文化の日に森林と木の「文化」について語る 公開シンポジウム アンケート結果

Q4: 感想・意見

- 貴重な説明(お話)を聞くことができて良かった。またこのようなシンポがあったら参加したいと思った。
- 盛りだくさんだったが、それぞれ重要なことを話していただいた。継続してこのようなシンポもいいが、参加者がもっと意見が話せる機会もあったらいいなと思った。
- 良い企画だから、広く積極的にPRしていいと思う。
- 「モデルフォレスト運動」が広まらないということだが、「理念」を表すような日本語訳が必要ではないだろうか。
- 10代、20代の参加がなければ、木の文化のことを語っても継承できないように感じる。
- 5名の講演すべて楽しかった。企画してくださった京都伝統文化の森推進協議会スタッフの皆さんに感謝。
- 様々なジャンルのお話が聞け、興味深い事柄、初めて聞いた事柄、物珍しい事柄など数多くのことを学ばせていただいた。「森林は空気のような存在」「森林型思考」「木偏の漢字が600余り」「エネルギー自給率100%が目標」「旧石器遺跡が多い」など、ハッとさせられる言葉が多かった。素敵なシンポジウムをありがとうございました。
- それぞれの視点から大きな森林文化を捉えることができて面白かった。もっと内容を聞いてみたい。
- 今まで協議会についても知らなかったが、この機会に見聞を広めることができた。これからの卒論に活かせればと考えている。一人一人の先生にもう少し長く講演時間を取ってもよかったのではないのでしょうか。
- 今日の話は楽しかったのと考えさせられることが多くあった。森林と深く関わっていきたいと思った。
- 森林による思考の違いからくる文化があることは発見だった。モデルフォレスト運動を広めることで環境保全にもなると思う。また、小学生や家族を含めて活動することが大切だと思う。
- 日本人と欧米人の森林に対する考えや意識、宗教観の違い、そういった普段知ることのないことを知り、また、私たち日本人が参考にすべき点、誇るべき点を意識することができた。
- 講師の皆様の力のこもったお話ありがとうございました。
- 11月3日の「文化の日」に森林文化というテーマで多種多様な切り口で講演されたことがとても興味深かった。日本の国土の7割でありながら、この7割のことを知らずに育つ子供たちが多いことがとても気になる。森林文化をもっと基本的なことが学べた地域社会がなくなり、学校だけに教育を任せすぎたような気がする。京都モデルフォレスト運動として、もっともっと森林型思考をしていき、恵まれた日本、その中でも恵まれた京都、この場所でまずモデル＝「見本」として、新たな森林文化を生み出して、森と人との関係を再構成しなければならないことが山ほどあるような気がする。今日は準備等ありがとうございました。
- 各先生方のお話は興味深かったが、時間が少ないために十分内容がつかめなかった気がして残念だった。最後のまとめの一言ずつが分かりやすく力づけられた気がした。難しい話を分かりやすく、こうしたシンポジウムをまた開催していただきたい。
- 森林や木の大切さを次の世代に伝えていくことが大切。シンポジウムの参加者の年齢層が高い。子育て世代の方々に参加したくなる内容にならないか。
- 各講演者の持ち時間が少ない。30分では十分講演しきれないのでは。もっとじっくり聞きたかった。また、質問時間がなかった。シンポジウムの回数を増やし、各回の演者を3～4人位にしてほしい。
- 日本、日本人の「根」を少し感じる内容であった。
- 神々と森について深く考えたことはなかった。勉強になった。
- 日本の山々の登山を50年来経験しているが、近辺(他府県)の山々のクヌギが枯れ始めているのを見て、私の住んでいる山々もいずれ枯れると行政当局に進言しても実行されなかったのは残念だった。今日の先生方のように専門家の方々の話なら行政当局もすぐに取り入れるのではと思った。また、害獣についても被害が多く、いずれ山々の緑も消滅するのではと思う。私の意見だが、サルは敏速なので山の餌を早く食べるため他の動物は取り遅れ、仕方なくクマなどは里山に出て射殺されているのではと思う。動物と植物の共存は大切。
- 持ち時間にあつたスピーチであつて欲しい。内容を豊富にするのはよいが、早口で進められてもあまり感動しない。
- 様々な分野の方々の森林についての意見や考えに触れることができて自分にとってとても刺激になった。日本人の文化(京都の文化)、宗教や思想と森林は密接に結びついており、今までは何となくの理解しかなかったが、このシンポジウムで理解が深まった。非常に面白かった。ほとんどの方の発表が延長していたので、1つの発表の間に5分程度休憩とするか、休憩時間を20分程度にし、調節する等をしたほうが良かったのではないかなと感じた。
- 日本の曼荼羅、ヨーロッパでの木工授業等興味深い話ばかりだった。

■ 国際森林年の文化の日に森林と木の「文化」について語る 公開シンポジウム アンケート結果

- もっと早くアナウンスがあれば、もっとたくさんの人に来てもらえたのに。只木先生の話は何度聞いても面白い。今となってはもう一度日本の思想を取り戻すべく教育を見直さなければ日本の将来はない。鎌田先生、もう一度、トトロ、千と千尋、もののけ姫を見たくなった。
- 今、北海道の河川では鮭が回帰、母川ふるさとで産卵を終え川の栄養素、海の栄養となり、微生物、ワカメetcの滋養となって生命を終えた。人間もその恩恵に大いにあずかっている。「ホツチャレ」と地の人は言い見つめている。森は川の母。森林を大切にしたい。
- 森林の保全、管理のあり方に関心があり参加したが、文化(≒人と森林との関係)的側面から森林を見直すことで、より幅広い視点で考える契機になった。ありがとうございました。
- 先生方の自らの森に関わる体験、自説をもう少し聞きたかった。森での活動状況をもっと詳しく知りたかった。
- 色々な立場の方からの話が聞けて大変参考になった。
- 森林の問題は必ず水との関係を抜きにして考えられないと思う。水源と森林との関係も次回のテーマに考えられたらいいかなと思います。森と水と土は三位一体の問題だと思う。
- 多様な視点からの話が聞けて大変勉強になった。
- もっと学生を呼んだほうがよいと思う。
- 災害と文化の話は大変興味深く聴いた。
- 森林業は50年、100年の周期のためバラバラの感があるが、業としては消費があって供給が成り立つ。ヨーロッパの話で燃料を道に置くヨーロッパの林野庁の取り組みは日本の林野庁も学ぶべき。日本では柱や板を作っているとの気持ちが強く、肥料や燃料を無視している。台風で放置間伐林が被害を大きくしている反省をすべき。マーケットバスケットを研究すべきと思う。
- 日常、本日のシンポジウムのテーマである森林と木の文化についてあまり考えることもなかったが、古来、日本人の持つ文化そのものであり、現代社会が失いつつあるものであることを感じた。また、モデルフォレスト運動もどこかで聞いたような言葉でしかなかったが、より具体的に分かった。ただ、この運動もメディアに対して少し露出度が少ないようにも思う。ありがとうございました。
- 森林と文化が結びついていることの重要性に気づいた。森林のことをもっと知りたいと思う。これから少々後れているが書物でも読んでみようと思う。
- 鎌田先生、原田先生の話が特に良かった。環境や森林政策は技術と制度が中心に進められてきているが、この先生方のように、地形、地質、気候に基づいた日本人固有の文化に基づく思想にもっと注目すべきだと考える。文化や思想をもっと大事にする政策が必要になると思った。
- 「文化」という観点から森林について考えたことがなかったので、すごく新鮮で納得するところが多かった。視野が広がった。チラシのところに詳細の場所を記すといいと思った。例えば「合同講義棟3F」を入れる、地図を載せる等。
- 森と木と生活が絡み合っているのが何となく分かった。
- 非常に興味深い話が聞けて楽しかった。少々時間が不足気味。やはり5名は多いのではないかな。3名程度にしてもう少し各自の持ち時間を与えてほしい。
- 難しい内容かと思っていたが、大変分かりやすく広い分野で日本の森林文化を歴史的に踏まえて教えてもらい、参加できたことを幸運に思った。
- ヨーロッパで木材がよく使われているのはびっくりした。モデルフォレスト運動の話はポイントがボケてよく分からなかった。京都の森林の取り組みに感心している。
- なるほどと思われることが多くあり、興味深く感じた。
- 森の重要さは認識できたが、実際のところ荒れて、手入れされなくなってきている。森林業が再生される具体的な方法を示してほしい。災害と災難の話も参考になった。
- テーマによって若干専門的な領域があり、理解しづらい部分もあったが、私たち世代において森林の重要性がよく理解でき有意義であったと思う。
- 木を使う生活！！
- 1テーマ30分のシンポでは時間的制約があり、皮相的になりがちであった。テーマを絞ってのシンポの方が良かった感があった。
- 初めて参加させてもらったが、京都なりの山のあり方、木材生産協同組合の京都市地域産材「みやこ杉木」のこと、お土産にももらったもの(北山杉でつくった温度計)で、兵庫県のほうも色々やっているのは前々から知っていたが、京都の取り組みもすごいのが分かって本当にありがとうございました。次回また参加したい。
- 私も先生方のような思想の境地に早くたどり着きたい。

■ 国際森林年の文化の日に森林と木の「文化」について語る
公開シンポジウム アンケート結果

- すばらしいシンポだった。
- 鎌田先生と原田先生の話が大変面白かった。
- 只木先生、岩井先生のは良かったが、小澤先生のは一寸雑然としていた。鎌田先生のも一寸理解が難しかった。原田先生のは大体分かった。全体として、自然(森、里、海)と日本人との関わりの大切さが分かった。西欧キリスト教の自然を従わせよは間違いである。しかし一般民衆は一寸違うと思われる。
- 私は城陽市に住んでいる。日本の高度経済成長期に山砂利が全国に運び出され、その後に産廃土が入れられた広大な荒地が残された。「そこを森にかえそう」というボランティアが募集され、私も一人として高齢だが体の続くかぎり森づくりに参加したいと思っているが、悩みは若い体力のある人たちがなかなか参加していただけないこと。こういったシンポジウムが多く開かれて皆さんの意識を高めていかなければいけないと思う。小学校前から自然を大切に教育をもっともっと進めていってほしいと思う。大変有意義な話をありがとうございました。
- ボランティアグループの維持。人材的参加人員のバラツキ。女性参加。経済的(動具と燃料代)負担増。活動の範囲が限定的になりつつある。※山城町森林公園の中での活動が主体。杉山の間伐と竹林の整備と公園内の草刈りと歩道の整備
- 小澤先生の高知県梶原町のようなエネルギー自給自足の村を、岩井先生の近くの中川地域(杉阪、真弓、大森、小野郷を含む)や雲ヶ畑で具現化されないでしょうか、京都市として。家のリフォームをリフォーム会社に任せるのではなく、できるだけ家主が参加することを当り前にしたい。ペレットストーブは電気を使う。電気を使わなくても働く、薪ストーブや木屑ストーブ(ボイラー)を是非日本(京都)で開発(早急に)して頂き、府、市の補助金を付けて下さい。6大都市で京都がトップを走るため。「木の文化」は昭和30年代(燃料革命と都市人口集中化か?)で断絶している。お寺の再建時だけ(興福寺さえ、米ヒバとアパとは・・・とほほ)。
- 恵まれた森林、豊かな日本(京都)の認識を改めて高め、一般の市民への運動を続けたい。12月3日(土)に行う「森の文化祭 於:雲ヶ畑林業センター」は継続しているので、村の中の文化祭から一般参加へ参加人員を増やしている。山仕事サークル杉良太郎のメンバーです。